

平成25年度に

特集

発掘調査された遺跡



国史跡 青谷上寺地遺跡

あおやよこぎいせき 青谷横木遺跡

えげこうげいせき 会下・郡家遺跡



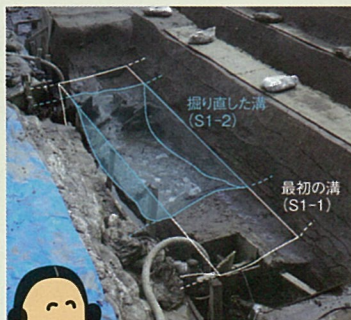
1 国史跡 青谷上寺地遺跡

鳥取市青谷町

青谷上寺地遺跡では、「交易拠点としての港湾集落」の様子を明らかにするため発掘調査を継続して実施しています。

今年度は、昨年度に引き続き中心域西側を調査し、弥生時代の溝と奈良～平安時代の盛土遺構が確認されました。溝の一つは、幅約5m、深さ約45cmで、一度埋まった後に掘り直されていることが分かり、当時の人々がこの溝を維持管理していたことが明らかになりました。奈良～平安時代の盛土遺構は、昨年度見つかった古代「山陰道」に直交していると考えられています。また、盛土遺構は幅約3.6m、高さ約56cm、隣の盛土遺構までの距離約21m(12歩)の等間隔で造られており、条里地割の境界であると考えられています。

(※)遺構：昔の人によってつくられたものあと



弥生時代の溝

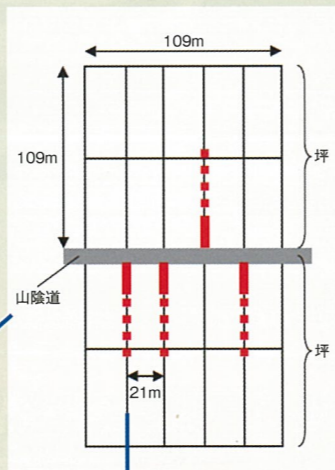


昨年度の発掘調査で確認された古代「山陰道」



条里地割の境界と考えられる奈良～平安時代の盛土遺構 (古代「山陰道」と直交します。)

条里地割と古代「山陰道」の関係模式図



2 青谷横木遺跡

鳥取市青谷町

青谷横木遺跡では、平安時代(9～10世紀)の木製祭祀具(お祓いの道具)や道路遺構が見つかりました。出土した木製祭祀具は、人形(人を模したもの)や馬形(馬をもしたもの)で総数3,000点以上にも上り、全国でもトップクラスの出土点数になります。木製祭祀具以外にも木簡(文字を書いた短冊状の木の板)も多く出土し、中には出挙(利子付で農民に貸し付けた稲)に関するもの、税に関するものがありました。多くの木製祭祀具、木簡が出土した青谷横木遺跡には当時の日置郷を管轄する気多郡衙(古代の行政単位である郡を治める役所)の出先機関があったと考えられます。また、道路遺構は古代「山陰道」の可能性があると考えられます。



古代「山陰道」の可能性のある道路状遺構



出土した木簡 (木簡の写真及び釈文は奈良文化財研究所による)



出土した数々の人形

3 会下・郡家遺跡

鳥取市気高町会下・郡家

会下・郡家遺跡では、弥生時代中ごろ(約2,100年前)から平安時代中ごろ(10世紀～11世紀)までの建物跡等が見つかりました。弥生時代中ごろの遺構には独立棟持柱建物跡があり、柱で囲まれた部分の面積は46.2㎡(28.5畳)もありました。県内での弥生時代の独立棟持柱建物跡は9例ありますが、この遺跡のものが最大で、祭りなど特別なことに使われていたと考えられています。平安時代中ごろの遺構の主なもの大型の掘立柱建物跡群で、11棟見つかりました。建物は全て軒を南に向けて建てられており、中には柱で囲まれた部分が50畳近くなるものもありました。これらの建物群は、この地域の経営や物資の管理を行う因幡国府の出先の施設であった可能性があります。



出土した緑釉陶器 (緑色の釉薬が塗られた器) 出土した弥生時代中ごろの土器(壺)



弥生時代中ごろの独立棟持柱建物跡



独立棟持柱建物 (想像図)



大型の掘立柱建物跡 (想像図)